

世田谷区立桜丘小学校
校長 東城 良尚様

令和5年度 学校関係者評価委員会（令和6年2月15日）

学校関係者評価アンケート結果により分析・改善に向けての提言

【学校関係者評価委員会】◎委員長

◎稲田 正克：地域、元目黒区立小学校長

菱刈 晃夫：学識経験者、国士舘大学教授

二川 早苗：元保護者、地域、日本家庭教育学会副理事長、元世田谷区立小学校PTA連合協議会長

吉良 雅彦：元保護者、元PTA会長

植田 圭司：新BOP事務局長

大賀 幸子：保護者

本委員会は学校の提案に基づき、以下の重点目標3点について桜丘小学校へ提言いたします。

<学校の重点目標についての分析・提言>

1. 重点目標①：キャリア・未来デザイン教育の推進

【アンケート内関連項目：学習・キャリア教育・先生、教職員・全般・情報提供（地域）】

2. 重点目標②：教育DXの推進

【アンケート内関連項目：学習・全般・学校からの情報提供（地域）】

3. 重点目標③：多様な個性が生かされる教育の推進

【アンケート内関連項目：「学校行事、学校の独自項目、情報提供（保護者・地域）」】

4. 終わりに

《アンケート実施日》

① 児童	令和5年	11月	15日
② 保護者	令和5年	11月	13日～ 27日
③ 地域	令和5年	11月	13日～ 29日

《回収の方法・回収率》

① 児童	学級にてタブレットで回答（5年147人、6年163人）
② 保護者	各家庭で2次元コードを通じて回答 回収率35%
③ 地域	回収後学校で2次元コードを通じて入力 回収率62%

1. 重点目標①：キャリア・未来デザイン教育の推進 - 「キャリア教育」と「せたがや探究的な学び」の実践

【アンケート内関連項目：学習・キャリア教育・先生、教職員・全般・情報提供（地域）】

・学習全般について、児童も保護者も概ね肯定的な評価をしているが、保護者が若干低い結果となっている。

また、キャリア教育に関して、児童と保護者では評価に開きが見られる。

これらの要因について様々推測されるが、児童の受け止め方が最も重要である。

子どもたちの声を大切にし、彼らが学びを楽しめる環境を今後も引き続き整えていただきたい。

保護者の評価が低く出ているのは、一つには保護者の期待の大きさからではないだろうか。保護者の声に耳を傾け、協力して解決策を見つけることが重要である。

キャリア教育の一環としてドリームマップは有用であろう。今後も児童に夢や希望をもたせるような取組を進めてほしい。

・児童が自信をもち、意見を表明できる場の提供は、子どもたちの成長にとって不可欠である。自分の考えをしっかりと述べられる授業であってほしい。

・「先生たちに相談できる」という項目について、経年変化から見ると、ここ数年で最も低い評価となっているが、子どもたちが楽しく学校に通えていれば特に問題はない。

敢えて言えば、日常から信頼関係を築く取組が必要だろう。引き続き注意深く見守ってほしい。

- ・最も近い将来モデルとしての区立中学校との関係性が十分に見直していただきたい。

2. 重点目標②：教育DXの推進 - 1人1台端末を日常的に活用し、「個別最適な学び」と「協働的な学び」と充実【アンケート内関連項目：学習・全般・学校からの情報提供（地域）】

- ・ICTの積極活用が定着しており、教師の専門性向上の支援もなされている。
タブレット等のデジタルツールを活用し、児童が自己表現や自己肯定感を高められるような学習機会を提供していただきたい。
先生方の「働き方改革」にもつながるよう学習や校務に生きるような研修を充実させてほしい。
- ・公開授業でICTの活用に関する情報共有を充実させる等、保護者との間で理解と信頼を築く取組を推進していただきたい。
学校と保護者のコミュニケーションを深めてほしい。
- ・アクティブラーニングを促進し、児童が主体的に学び合う環境を提供してほしい。
そのために教師にはファシリテーター的役割も求められる。
そうすることによって児童が意見を自由に発表できる雰囲気をさらに整えてほしい。
- ・保護者や地域への情報発信を強化し、学校の取組や成果を透明かつ効果的に伝えることが必要とされている。
- ・地域リソースを有効活用し、学校の教育プログラムに組み込むことで、地域との連携を強化してほしい。

3. 重点目標③：多様な個性が生かされる教育の推進 - 自他ともに価値ある存在としての尊重【アンケート内関連項目：「学校行事、学校の独自項目、情報提供（保護者・地域）」】

- ・挨拶への評価が経年変化において下降気味である。マナーとコミュニケーションスキルを育むため挨拶は重要だ。
「挨拶名人」「全校朝会での挨拶宣言」「学び舎での挨拶運動」の取組を引き続き推進していただきたい。
- ・「早寝早起き朝ご飯」について、児童の評価が低く保護者は高い。
生活習慣の重要性を学校と家庭で共有し、児童が健康でバランスの取れた生活を送れるようにサポートしていただきたい。
- ・児童の健康的な生活習慣を促進するために、校内外での運動や体力向上を支援する取組をしてほしい。
- ・友だちは大切にしているが自分自身への評価が低い。
児童の自己肯定感を高めるために、自分の良いところを見付けられるように工夫する必要がある。
現在行われている「エールの木」のような取組を更に推進してほしい。
- ・学校では、褒めたり認めたりするポジティブな声掛けや心の健康への意識を育てている。
家庭でもそのような機会を取り入れ、継続して実践されるよう学校に協力にしていきたい。
- ・学校ホームページの情報提供に関して、情報をあまり詳しく公開することで、親子のコミュニケーション機会が失われる可能性はないだろうか。
結果だけが先に保護者に伝わることで、子どもたちが学校での体験や感動を親に十分に共有できていないということはないだろうか。
学校は、適度な情報提供を心がけ、親子のコミュニケーションを促進する取組に寄与していただきたい。

4. 終わりに

- ・学校の重点目標が保護者に適切に伝わっているだろうか。実際保護者がどの程度学校からの情報を確認しているかデータで把握することが重要だ。
その情報をもとに、より効果的な情報提供の方法を検討することが必要ではないか。
保護者の低い回答率が、学校に対する信頼や満足度を示す証として捉えられなくもない。
だからといってそれが低い回答率を放置すべき理由にはならない。
保護者の学校教育への関心を促すために、アンケート回収の改善、情報提供の工夫が必要である。
- ・学校の安全性が高く評価されていることは素晴らしい。引き続き安全面に配慮し、児童が安心して生活できる環境を維持していただきたい。
- ・学校は子どもたちの可能性を最大限に引き出す場である。明るい未来を築けるように、子どもたちの成長を支援す

る取組に引き続き期待したい。

- ・子どもたちが学校生活を楽しんでいることはアンケート全体からうかがえる。

このポジティブな雰囲気を持続し、保護者と協働しながら、児童の健やかな成長に尽力していただきたい。

提言に対して、具体的な改善策や取組を期待したい。

- ・保護者とのコミュニケーションや重点目標の明確化など、具体的アクションプランを策定し実行していただきたい。

- ・今回のアンケートにおける「平均点」と「標準偏差」による分析は、数字に意味をもたせる有効な手段である。

同時に経年変化の視点も必要ではないか。単年度の偏差だけではなく、数年間の変化を合わせ見ることで、その傾向と要因がより明確になるであろう。

それらの結果を踏まえて、子どもたちの声を大切に、共に保護者の声も生かしながら彼らが学びを楽しめる環境を引き続き整えていただきたい。

- ・区のアンケートは5,6年生対象だが、できれば昨年までと同様に1~4年生も取っていただきたい。

入学後直後からのデータの蓄積が、その後の学校計画の補助線となることだろう。

様々な提言をいただきましたが、日頃より桜丘小学校の教育にご尽力くださっております東城良尚校長先生はじめ、教職員の皆様に心より感謝申し上げます。

今後とも桜丘小学校の子どもたちを見守り、ご指導のほどよろしくお願い申し上げます。

地域からの信頼も厚い桜丘小学校の更なるご発展をお祈り申し上げます。